

2021年3月期 第1四半期 決算電話カンファレンス 主な質疑応答記録

日時:2020年7月28日(火)12:00 ~ 13:00

出席者:常務取締役 経営企画本部長 杉村 英男

広報・IRグループリーダー 小林 太郎

1. 1Q(4-6月)の実績、通期予想について

Q.1 1Qのコロナ影響はいかがでしたか

A.1 期初予想では通期の営業利益はコロナ影響として、マイナス34億円ぐらいと見ていました。1Q時点では、ライフアメニティーはデンタルは見通し通り、フォトクロ、エクセルシャノンはややマイナスでした。一方、セメントは数量が思ったほど落ちず、化成品の売上もほぼ予定通りでした。全体的には石炭のコスト安もあり、営業利益は期初予想に沿っています。通期でも数量面では影響があると思いますが、原燃料安の恩恵も受け期初予想から大きな減益はなさそうと考えています。

Q.2 5月の説明会では固定費などが前年比約100億増加すると説明されていましたが、どのように進みそうでしょうか

A.2 固定費などの増加が年間約100億円でしたので、計算では四半期毎に25億円となりますが1Qは8億円の増加となりました。修繕費は過去に補修を抑えていたということもあり、予定通り進めます。1Qの減価償却費は前年同期比2億円増加、投資は下期に向けて少しずつ増えていきますが、コロナ影響もあり実施前にしっかり精査します。研究開発費予定通り進むと思います。経費面では1Qは在宅勤務で旅費交通費・交際費が抑制され、3億円ほど販管費が下がりましたのでこの傾向が続くと思います。

Q.3 営業外損益の改善の内容を教えてください

A.3 前年は営業外費用で解体撤去引当金が5億円、為替差損が2億円強ありましたが、当期はほとんどなかったためです。

2. セグメントの状況について

Q.4 セメントの国内販売についていかがですか

A.4 広島は大型物件・復興需要で堅調。名古屋も堅調です。東京は落ち込みがありましたが、全体的に物流が改善されています。

Q.5 インテルの決算で先端品の開発の遅れなどが話題になりましたが、トクヤマへの影響はありますか。トクヤマのICケミカルは米国への投資も考えていますか

A.5 足元は大きな影響がないと考えていますが、アジアと二極化して北米に大きな工場ができる場合は、お客様と一緒に北米にも拠点を作ることも考えられます。北米は再生可能エネルギーのコストも安いので、事業展開として考えていく必要があります。

Q.6 ライフアメニティーは2Q以降をどのように見ればよろしいですか

A.6 フォトクロは7月以降数量が戻ってきていますので、2Qではある程度復活の兆しが出て、下期に向けては回復していくと思っています。デンタルは期初、かなり厳しめの予想を立てていましたが下期に向

けて少しずつ復活が見えてきます。

3. 製品の状況について

Q7 苛性ソーダ国内の市況はいかがでしょうか。2Q以降は数量、市況をどう見ていますか。輸出は増やすのでしょうか

A7 国内の販売価格は維持できていますし、2Q以降も価格はステイと見えています。国内の数量が若干減ったとしても輸出で補います。コロナがある程度収束し、国内の数量が戻れば国内に販売、海外の市況が上がればその分増益に寄与すると思っています。

Q8 ポリシリコンは対前年同期比、期初計画と比べてどのように進捗していますか

A8 1Qは対前年同期比で数量は1割ほど増えており計画通りです。

Q9 売電量は2Q以降どのような変化をしていきますか

A9 期初に見通したものから大きな増減はないと見えています。

4. 石炭火力発電について

Q10 非効率な石炭火力のフェードアウトに関する大臣の発言について、どのように考えていますか

A10 当社にとっても大きな影響があると認識しています。この件は年末に向けてさらに議論がされると思いますが、石炭火力の休廃止については、すべての事業者が対象となるのか注視しています。今回はCO2削減の中で出された方針と思いますので、今後石炭火力発電を取り巻く環境は益々厳しくなってくると思います。当社はエネルギー多消費型の事業で構成されていますので、将来はそれに依存しないような事業構造を目指したいと考えています。

以上